

平成 21 年度 九州大学 2 次試験後期日程 (数学問題)150 分  
理学部 (数学科) 3 月 12 日 数学 I・II・III・A・B・C

1 (1) 2 次の正方行列

$$A = \begin{pmatrix} \cos^2 \theta & \cos \theta \sin \theta \\ \cos \theta \sin \theta & \sin^2 \theta \end{pmatrix}$$

で表される移動  $f$  によって点  $P(1, k)$  は同じ点  $P(1, k)$  に移るとする。ただし,  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  とする。

(i) 点  $P$  の  $y$  座標  $k$  を  $\theta$  を用いて表せ。

(ii) 移動  $f$  は, 直線  $y = kx$  上の任意の点  $(x, kx)$  を同じ点  $(x, kx)$  に移すことを示せ。

(iii) 移動  $f$  は, 直線  $y = kx$  に垂直な直線  $y = mx$  上の点をすべて原点  $(0, 0)$  に移すことを示せ。

(2) 2 次の正方行列  $B$  で表される移動を  $g$  とする。この  $g$  によって,  $x$  軸上の任意の点は直線  $y = 2x$  上の点に移り,  $y$  軸上の任意の点は直線  $y = 3x$  上の点に移り, さらに直線  $y = x$  上の任意の点は直線  $y = 5x$  上の点に移るとする。このような行列  $B$  をすべて求めよ。その中で特に点  $C(1, 1)$  を点  $D(-1, -5)$  に移す行列  $B$  を決定せよ。

2 半径 1 の円  $C$  の円周を  $n$  等分した点  $P_1, \dots, P_n$  を順に結んでできる正  $n$  角形を  $A_n$  とする。また, 各  $P_i$  における円  $C$  の接線を考え, これらの接線の交点を順に結んでできる正  $n$  角形で, 円  $C$  に外接するものを  $B_n$  とする。  $A_n, B_n$  の面積をそれぞれ  $a_n, b_n$  とする。ただし,  $n \geq 3$  とする。このとき, 次の問いに答えよ。

(1)  $a_n, b_n$  を求めよ。

(2)  $a_n = \frac{n^2 b_n}{n^2 + b_n^2}, a_{2n} = \sqrt{a_n b_n}, \frac{a_{2n} b_n}{a_{2n} + b_n} = \frac{b_{2n}}{2}$  を示せ。

(3)  $a_6, b_6, a_{12}, b_{12}$  を計算し,  $b_{12} < 3.22$  であることを示せ。  
ただし,  $\sqrt{3} = 1.73205 \dots$  であることは使ってよい。

(4) 極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n$  と  $\lim_{n \rightarrow \infty} b_n$  を求めよ。

3 関数  $y = f(x)$  は、すべての  $x$  に対して  $f(x) > 0$  および

$$(x^2 + 1)f(x) = \int_0^x \left\{ t^2 f'(t) + \frac{4t}{t^2 + 1} f(t) \right\} dt + 1$$

をみたすとする．このとき，次の問いに答えよ．

- (1)  $f'(x)$  を  $f(x)$  を用いて表せ．
- (2) 不定積分  $\int \frac{f'(x)}{f(x)} dx$  を計算し，それを利用して  $f(x)$  を求めよ．
- (3) 関数  $y = f(x)$  の極値を求めよ．

4 二者 A と B が対戦し，引き分けはないものとする．このとき，次の問いに答えよ．

- (1) 先に 4 勝した方が優勝するときめる．A が B に勝つ確率は  $\frac{3}{4}$  であるとき，5 試合目までに A が優勝する確率を求めよ．
- (2) 先に 4 勝した方が優勝するときめる．A が B に勝つ確率は  $\frac{1}{2}$  であるとき，A が 4 勝 3 敗で優勝する確率と A が 4 勝 2 敗で優勝する確率の大小を比べよ．
- (3) 自然数  $n$  と  $m$  が  $1 \leq m < n$  をみたしているとする．先に  $n$  勝した方が優勝するときめる．A が B に勝つ確率は  $\frac{1}{2}$  であるとき，A が  $n$  勝  $m$  敗で優勝する確率と A が  $n$  勝  $m - 1$  敗で優勝する確率が同じであるようなすべての組  $(n, m)$  を求めよ．

## 解答例

1 (1) 行列  $A = \begin{pmatrix} \cos^2 \theta & \cos \theta \sin \theta \\ \cos \theta \sin \theta & \sin^2 \theta \end{pmatrix}$  の特性方程式は

$$\lambda^2 - (\cos^2 \theta + \sin^2 \theta)\lambda + (\cos^2 \theta \cdot \sin^2 \theta - \cos \theta \sin \theta \cdot \cos \theta \sin \theta) = 0$$

すなわち  $\lambda^2 - \lambda = 0$  これを解いて  $\lambda = 0, 1$

$$\begin{aligned} A - E &= \begin{pmatrix} \cos^2 \theta - 1 & \cos \theta \sin \theta \\ \cos \theta \sin \theta & \sin^2 \theta - 1 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} -\sin^2 \theta & \cos \theta \sin \theta \\ \cos \theta \sin \theta & -\cos^2 \theta \end{pmatrix} \end{aligned}$$

ベクトル  $\begin{pmatrix} 1 \\ k \end{pmatrix}$  は,  $A$  の固有値 1 に対するベクトルで, その 1 つのは

$$\begin{pmatrix} \cos \theta \\ \sin \theta \end{pmatrix} = \cos \theta \begin{pmatrix} 1 \\ \tan \theta \end{pmatrix} \quad \dots \textcircled{1}$$

(i) ① より  $k = \tan \theta$

(ii) 条件より,  $A \begin{pmatrix} 1 \\ k \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ k \end{pmatrix}$  であるから

$$xA \begin{pmatrix} 1 \\ k \end{pmatrix} = x \begin{pmatrix} 1 \\ k \end{pmatrix} \quad \text{すなわち} \quad A \begin{pmatrix} x \\ kx \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x \\ kx \end{pmatrix}$$

よって,  $f$  により直線  $y = kx$  上の任意の点  $(x, kx)$  は同じ点  $(x, kx)$  に移る.

(iii)  $A \begin{pmatrix} -\sin \theta \\ \cos \theta \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$  より, ベクトル  $\begin{pmatrix} -\sin \theta \\ \cos \theta \end{pmatrix}$  は,  $A$  の固有値 0 に対する固有ベクトルで, ① に垂直である. したがって,  $f$  によって, 直線  $y = mx$  上の点をすべて原点に移す.

補足  $A$  は対称行列であるから, 固有値 0, 1 に対する 2 つの固有ベクトルは垂直である<sup>1</sup>.

<sup>1</sup>[http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai\\_ri\\_2003.pdf](http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri_2003.pdf) 7 を参照.

(2) 題意より, 実数  $\alpha, \beta$  を用いて

$$B \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} = \alpha \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}, \quad B \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} = \beta \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} \quad \dots \textcircled{1}$$

上の2式から  $B \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \alpha + \beta \\ 2\alpha + 3\beta \end{pmatrix} \quad \dots \textcircled{2}$

このとき, 点  $(\alpha + \beta, 2\alpha + 3\beta)$  は, 直線  $y = 5x$  上の点であるから

$$2\alpha + 3\beta = 5(\alpha + \beta) \quad \text{ゆえに} \quad 3\alpha + 2\beta = 0$$

ここで,  $\alpha = 2a, \beta = -3a$  とおくと ( $a$  は実数),  $\textcircled{1}$  より

$$B \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \alpha & \beta \\ 2\alpha & 3\beta \end{pmatrix} \quad \dots \textcircled{3}$$

したがって  $B = \begin{pmatrix} 2a & -3a \\ 4a & -9a \end{pmatrix}$  ( $a$  は実数)

また,  $B$  によって点  $C(1, 1)$  が点  $(-1, -5)$  に移るから,  $\textcircled{2}$  より

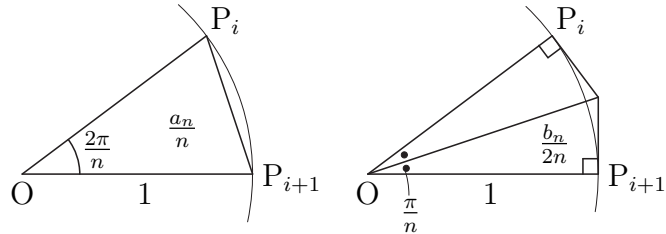
$$\begin{pmatrix} \alpha + \beta \\ 2\alpha + 3\beta \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 \\ -5 \end{pmatrix} \quad \text{これを解いて} \quad \alpha = 2, \quad \beta = -3$$

これを  $\textcircled{3}$  に代入して  $B = \begin{pmatrix} 2 & -3 \\ 4 & -9 \end{pmatrix}$

別解  $\begin{pmatrix} 2a & -3a \\ 4a & -9a \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 \\ -5 \end{pmatrix}$  であるから  $a = 1$

よって  $B = \begin{pmatrix} 2 & -3 \\ 4 & -9 \end{pmatrix}$

- 2 (1) 2つの面積  $\frac{a_n}{n}$  および  $\frac{b_n}{2n}$  は、下の図の部分の面積である。



$$\text{したがって } \frac{a_n}{n} = \frac{1}{2} \cdot 1^2 \sin \frac{2\pi}{n}, \quad \frac{b_n}{2n} = \frac{1}{2} \cdot 1 \tan \frac{\pi}{n}$$

$$\text{よって } a_n = \frac{n}{2} \sin \frac{2\pi}{n}, \quad b_n = n \tan \frac{\pi}{n}$$

- (2) (1)の結果から

$$\begin{aligned} \frac{n^2 b_n}{n^2 + b_n^2} &= \frac{n^2 \cdot n \tan \frac{\pi}{n}}{n^2 + n^2 \tan^2 \frac{\pi}{n}} = \frac{n \tan \frac{\pi}{n}}{1 + \tan^2 \frac{\pi}{n}} = \frac{n \sin \frac{\pi}{n} \cos \frac{\pi}{n}}{\sin^2 \frac{\pi}{n} + \cos^2 \frac{\pi}{n}} \\ &= \frac{n}{2} \sin \frac{2\pi}{n} = a_n, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} a_n b_n &= \frac{n}{2} \sin \frac{2\pi}{n} \cdot n \tan \frac{\pi}{n} = n \sin \frac{\pi}{n} \cos \frac{\pi}{n} \times \frac{n \sin \frac{\pi}{n}}{\cos \frac{\pi}{n}} \\ &= n^2 \sin^2 \frac{\pi}{n} = \left( \frac{2n}{2} \sin \frac{2\pi}{2n} \right)^2 = a_{2n}^2, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{a_{2n} b_n}{a_{2n} + b_n} &= \frac{n \sin \frac{\pi}{n} \times n \tan \frac{\pi}{n}}{n \sin \frac{\pi}{n} + n \tan \frac{\pi}{n}} = \frac{n \sin \frac{\pi}{n}}{\cos \frac{\pi}{n} + 1} = \frac{2n \sin \frac{\pi}{2n} \cos \frac{\pi}{2n}}{\left( 2 \cos^2 \frac{\pi}{2n} - 1 \right) + 1} \\ &= \frac{n \sin \frac{\pi}{2n}}{\cos \frac{\pi}{2n}} = \frac{1}{2} \cdot 2n \tan \frac{\pi}{2n} = \frac{1}{2} b_{2n} \end{aligned}$$

$n \geq 3$  より, (1)の結果から  $a_n > 0, b_n > 0$

$$\text{よって } a_n = \frac{n^2 b_n}{n^2 + b_n^2}, \quad a_{2n} = \sqrt{a_n b_n}, \quad \frac{a_{2n} b_n}{a_{2n} + b_n} = \frac{b_{2n}}{2}$$

(3) (1) の結果から

$$a_6 = \frac{6}{2} \sin \frac{2\pi}{6} = \frac{3\sqrt{3}}{2}, \quad b_6 = 6 \tan \frac{\pi}{6} = 2\sqrt{3}$$

さらに, (2) の結果より

$$a_{12} = \sqrt{a_6 b_6} = \sqrt{\frac{3\sqrt{3}}{2} \times 2\sqrt{3}} = 3,$$

$$b_{12} = \frac{2a_{12}b_6}{a_{12} + b_6} = \frac{2 \cdot 3 \cdot 2\sqrt{3}}{3 + 2\sqrt{3}} = \frac{12}{2 + \sqrt{3}} = 12(2 - \sqrt{3})$$

$\sqrt{3} = 1.73205 \dots$  であるから

$$b_{12} = 12(2 - \sqrt{3}) < 12(2 - 1.732) = 3.216 < 3.22$$

(4) (1) の結果から

$$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{n}{2} \sin \frac{2\pi}{n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \pi \cdot \frac{\sin \frac{2\pi}{n}}{\frac{2\pi}{n}} = \pi \cdot 1 = \pi$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} b_n = \lim_{n \rightarrow \infty} n \tan \frac{\pi}{n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \pi \cdot \frac{\sin \frac{\pi}{n}}{\frac{\pi}{n}} \cdot \frac{1}{\cos \frac{\pi}{n}} = \pi \cdot 1 \cdot \frac{1}{1} = \pi$$

$$\boxed{3} \quad (1) \quad (x^2 + 1)f(x) = \int_0^x \left\{ t^2 f'(t) + \frac{4t}{t^2 + 1} f(t) \right\} dt + 1 \quad \dots (*)$$

(\*) の両辺を  $x$  について微分すると

$$2xf(x) + (x^2 + 1)f'(x) = x^2 f'(x) + \frac{4x}{x^2 + 1} f(x)$$

$$\text{整理すると} \quad f'(x) = \left( \frac{4x}{x^2 + 1} - 2x \right) f(x)$$

$$(2) \quad f(x) > 0 \text{ より, (1) の結果から} \quad \frac{f'(x)}{f(x)} = \frac{4x}{x^2 + 1} - 2x$$

$$\text{したがって} \quad \int \frac{f'(x)}{f(x)} dx = \int \left( \frac{4x}{x^2 + 1} - 2x \right) dx$$

$$\log f(x) = 2 \log(x^2 + 1) - x^2 + \log C$$

$$\text{ゆえに} \quad f(x) = C(x^2 + 1)^2 e^{-x^2} \quad (C \text{ は積分定数})$$

$$(*) \text{ に } x = 0 \text{ を代入すると } f(0) = 1 \quad \text{さらに上式より} \quad C = 1$$

$$\text{よって} \quad f(x) = (x^2 + 1)^2 e^{-x^2}$$

$$(3) \quad (1) \text{ の結果から} \quad f'(x) = -\frac{2x(x+1)(x-1)}{x^2+1} f(x)$$

$f(x) > 0$  により,  $f(x)$  の増減表は次のようになる.

$x$	...	-1	...	0	...	1	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+	0	-
$f(x)$	↗	極大	↘	極小	↗	極大	↘

$$\text{よって} \quad \text{極大値 } f(-1) = f(1) = \frac{4}{e}, \text{ 極小値 } f(0) = 1$$

$\boxed{4}$  (1) A が B に勝つ確率が  $p$  のとき, A が B に対して  $x$  勝  $y$  敗になる確率を  $P(x, y)$  とすると

$$P(x, y) = {}_{x+y}C_x p^x (1-p)^y \quad \dots (*)$$

求める確率は, A が B に 4 連勝または 3 勝 1 敗の後に勝つ確率である.

$p = \frac{3}{4}$  であるから, (\*) により

$$\begin{aligned} \left(\frac{3}{4}\right)^4 + P(3, 1) \times \frac{3}{4} &= \left(\frac{3}{4}\right)^4 + {}_4C_3 \left(\frac{3}{4}\right)^3 \frac{1}{4} \times \frac{3}{4} \\ &= \left(\frac{3}{4}\right)^4 + \left(\frac{3}{4}\right)^4 = \frac{81}{128} \end{aligned}$$

- (2) A が 4 勝 3 敗で優勝する確率は, A が B に 3 勝 3 敗の後に勝つ確率である.  
 $p = \frac{1}{2}$  であるから, (\*) により

$$P(3, 3) \times \frac{1}{2} = {}_6C_3 \left(\frac{1}{2}\right)^6 \times \frac{1}{2} = \frac{5}{32}$$

- A が 4 勝 2 敗で優勝する確率は, A が B に 3 勝 2 敗の後に勝つ確率である.  
 $p = \frac{1}{2}$  であるから, (\*) により

$$P(3, 2) \times \frac{1}{2} = {}_5C_3 \left(\frac{1}{2}\right)^5 \times \frac{1}{2} = \frac{5}{32}$$

よって, A が 4 勝 3 敗で優勝する確率と A が 4 勝 2 敗で優勝する確率はともに  $\frac{5}{32}$  で等しい.

- (3) A が  $n$  勝  $m$  敗で優勝する確率は, A が B に  $n - 1$  勝  $m$  敗の後に勝つ確率である.  $p = \frac{1}{2}$  であるから, (\*) により

$$\begin{aligned} P(n-1, m) \times \frac{1}{2} &= {}_{m+n-1}C_{n-1} \left(\frac{1}{2}\right)^{m+n-1} \times \frac{1}{2} \\ &= {}_{m+n-1}C_{n-1} \left(\frac{1}{2}\right)^{m+n} \cdots \textcircled{1} \end{aligned}$$

A が  $n$  勝  $m - 1$  敗で優勝する確率は, A が B に  $n - 1$  勝  $m - 1$  敗の後に勝つ確率である.  $p = \frac{1}{2}$  であるから, (\*) により

$$\begin{aligned} P(n-1, m-1) \times \frac{1}{2} &= {}_{m+n-2}C_{n-1} \left(\frac{1}{2}\right)^{m+n-2} \times \frac{1}{2} \\ &= {}_{m+n-2}C_{n-1} \left(\frac{1}{2}\right)^{m+n-1} \cdots \textcircled{2} \end{aligned}$$

① と ② の確率は等しいので

$$\begin{aligned} {}_{m+n-1}C_{n-1} \left(\frac{1}{2}\right)^{m+n} &= {}_{m+n-2}C_{n-1} \left(\frac{1}{2}\right)^{m+n-1} \\ \frac{(m+n-1)!}{m!(n-1)!} \cdot \frac{1}{2^{m+n}} &= \frac{(m+n-2)!}{(m-1)!(n-1)!} \cdot \frac{1}{2^{m+n-1}} \\ \frac{m+n-1}{m} &= 2 \quad \text{すなわち} \quad n = m + 1 \end{aligned}$$

よって  $(n, m) = (k + 1, k) \quad (k = 1, 2, \dots)$